

月例会「大気数値シミュレーション」(第4回)のプログラム

今回は積雲のシミュレーションをテーマにし、下記のプログラムにより開催します。

日時 1982年9月3日(金) 13時30分

場所 東京管区気象台第一会議室(気象庁8階)

講演題目

1. 米谷恒春(国立防災科学技術センター): 数値実験によるヒートアイランドが積雲対流におよぼす影響の研究
2. 椎野純一(気象研究所台風研究部): 降水形成の微物

理過程を含む積雲モデルによる降水発達のシミュレーション

3. 武田喬男(名古屋大学水圏科学研究所): 雲核が積雲の微細構造におよぼす影響について

なお、次回の月例会のテーマを講演終了後討論しますので、御意見をお願いします。

連絡先 気象研究所(台風研究部)井沢・近藤

電話 0298-51-7111 内 521

第8回「リモートセンシングシンポジウム」開催のお知らせ

主催: 計測自動制御学会

企画: リモートセンシング部会

協賛(依頼中): 応用物理学会, 海洋気象学会, 画像電子学会, 資源観測解析センター, 精機学会, 地震学会, テレビジョン学会, 電気学会, 電子通信学会, 土木学会, 日本海洋学会, 日本火山学会, 日本機械学会, 日本気象学会, 日本鉱業会, 日本航空宇宙学会, 日本写真学会, 日本写真測量学会, 日本自動制御協会, 日本測量協会, 日本造船振興財団, 日本地質学会, 日本林業技術協会, 日本陸水学会, 日本リモートセンシング学会, 農業土木学会, 物理探査学会, リモートセンシング技術センター

最近では、リモートセンシングの研究調査は日本の各専門機関で盛んに実施されております。一方、リモートセンシングには、計測・制御、コンピュータサイエンス、画像処理などに関するソフトウェアとハードウェアの開発が必要であると同時に、広範多岐にわたる応用分野での研究開発も不可欠であります。そこで当学会では、広く他の学協会に協賛を呼びかけ、今年も第8回リモートセンシングシンポジウムを下記の要領で企画いたしました。

今回は特に、「大気効果の推定」「水質の定量的評価法」に関する特別セッションを設け、問題点や疑問点、失敗体験などを気軽に議論しあい、その中から今後追究すべき問題やその解決の方向などを見出していただければと考えています。

特別セッションでの講演もふるってご応募ください。

学会員多数のご協力とご支援をお願いいたします。

記

期日: 昭和57年11月9日(火), 10日(水)

会場: 国立教育会館(東京都千代田区霞が関 3-2-3)

講演申込締切: 昭和57年8月31日(火)

講演申込方法: A4版の透明用紙に 1) 題目, 2) 登壇者・連名者の氏名, 勤務先および所属学協会名, 3) 連絡先, 4) 400字以内の概要, 5) 希望するセッション名(下記参照, 複数可), 6) 原稿枚数(2ページか4ページ)の指定を記入のうえお申し込みください。申込者には指定原稿用紙をお送りします。

特別セッション: 大気効果の推定, 水質の定量的評価法

計測システム: センサ(可視光, 近赤外線, 中間赤外線, 熱赤外線, マイクロ波, レーザー), プラットフォーム, 記録方式(PCM, FM, 写真など), 計測機器とその校正など

データの収集および補正: 通信, 伝送, 前処理(ひずみ補正, 大気効果補正), グラントルースなど

データ解析システムと手法: 分類手法, テクスチャ解析, 光学処理, 視覚判読手法など。

応用: 環境, 都市, 資源, 地質, 農林, 水産, 海洋, 河川, 火山, 地熱, 気象, 防災, 測量など。

講演の予稿集: 講演時間は1件あたり15分ないし20分とし、予稿集はオフセット印刷で1論文1,480字詰原稿用紙2ページまたは4ページとなります。

講演原稿の締切: 昭和57年9月30日(木)

参加費(予稿集代金):

当学会および協賛学協会会員 5,500円, 学生 3,500円, 一般 6,500円

講演申込先: (☎113) 東京都文京区本郷 1-35-28-303

計測自動制御学会

リモートセンシングシンポジウム

係 電話 (03) 814-4121